

思いやりの言動に満ちた学校に

上越市立頸城中学校長 田中 敦

3月4日から4月5日まで長期の臨時休業となりましたが、この間、生徒にも職員にもコロナウィルスやインフルエンザ等への感染者が出ず、安心しているところです。

今日から、令和2年度が始まります。新しい教室、新しいクラスメート、新しい学級担任など昨年度とは環境が変わりましたが、早くなれて精一杯自分の可能性を伸ばしていったほしいと思います。

さて、始業式に当たり皆さんに今年是非、がんばってもらいたいことをお話しします。まず、昨年度お願いしていた凡事徹底については継続してほしいと思います。

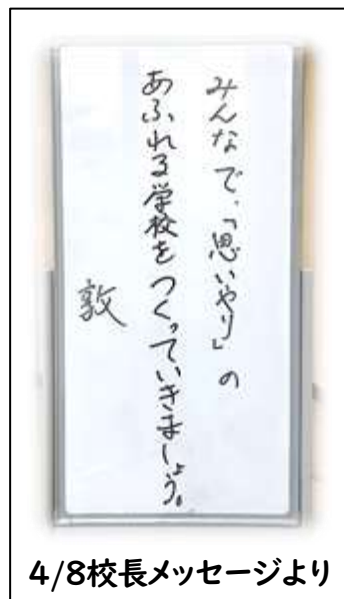
今年、特にお願いしたいことは「思いやり」の気持ちをもってほしいということです。あなたの周りに困っている人がいたら、そっと声かけをしてほしい。話を聞いてあげて慰めてほしい。「きっと、大丈夫」といって、励ましてあげてほしい。その人の力になってほしい。また、失敗してしまった人へは、そのことに触れずに黙っていてあげることも、立派な「思いやり」だと思います。とにかく、様々な場面で他への「思いやり」の気持ちを見せてほしいと思います。

今、皆さんも知っているように全国各地でコロナウィルスに感染している人が増えてきています。県内でも多くの方が感染しています。今は誰が感染しても不思議ではない状況です。いつかは上越市にも感染する人が出てくるでしょう。本人は勿論、その家族の中にも感染する人も出てくるかもしれません。その人はきっと不安な気持ちでいっぱいのはずです。優しい言葉をかけてあげてください。支えてあげてください。間違っても感染した人や、家族の誰かが感染した人を傷つけるような言動を決してとらないでください。近くに感染者が出たときには黙ってあげることも「思いやり」です。ネットで見られるようにデマを流したり、誹謗中傷したりすることは犯罪にも当たります。また、感染者を特定することもおかしいものかと、周囲をさみしい気持ちにさせます。頸城中からそのような人を出さないようにしていきましょう。

皆さんがよく知っている志村けんさんが亡くなりました。彼と同じ番組で共演していた嵐の相葉雅紀（まさき）さんが次のように語っていました。嵐の他のメンバーがドラマなどの仕事に来ていたときに、自分の所にはあまり仕事がこなかったそうです。そのとき、志村さんが「あせるんじゃないよ。ドラマは3月で終わるが、俺の番組はずっと続くから。」と言って励ましてくれた、というのです。その言葉が相葉さんの心の支えになったそうです。

私たち全員がそんな優しく思いやりのある人になると、毎日、登校することが楽しい素晴らしい学校になりますよね。そんな学校をつくっていきましょう。明日から1年生も登校します。優しく思いやりのある温かい気持ちで迎えましょう。

（以上、4月7日始業式の校長講話より）



4/8校長メッセージより

令和2年度入学式 ～^{ほんじてってい}「凡事徹底」「思いやり」を大切に～

4月8日、桜満開の青空の下、令和2年度入学式を挙行いたしました。笑顔で記念写真を撮る姿を見ながら、無事に入学式を行うことができた喜びを実感しました。式典の規模を縮小し、ご来賓皆様の臨席をお断りしての式となりましたが、新入生は最後まで整然とした態度で式に参加しました。さて、入学式の中で、常に話している2つのことを話しました。

この2つができるようになると素晴らしい学校になるはずです。生徒と教職員、保護者、地域が一つになって生徒を育てていければと考えています。



1 ^{ほんじてってい}凡事徹底・・・愛される頸城中生になるために

ささいなことや当たり前のことを確実に行う。例えば、朝起きたら家族にあいさつし、ご飯を食べる。決められた時間に学習し、睡眠をとる。学校に遅刻せず登校し、授業準備を行い、チャイムが鳴る前に着席する。授業中は私語をせず集中して学習に取り組む。自転車に乗るときは道路の左側や歩道を1列で走る。ゴミが落ちていたら、拾ってゴミ箱に捨てる。

2 思いやり・・・居心地のよい学校をつくるために

不安な気持ちをもっている人や困っている人に、そっと声をかけよう。手を差し伸べよう。話を聞いてやろう。失敗してしまった人がいたら、そのことに触れず黙っていてあげよう。

「キャリア・パスポート」の運用が始まります

将来の変化を予測することが困難な社会の中、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。そして、その力を子どもたち一人一人に育む学校教育の実現が求められています。こうした視点に立った教育活動は「キャリア教育」と呼ばれ、平成29年告示の小中学校学習指導要領（文部科学省）の総則では、キャリア教育の充実を図ることが初めて明示されました。



「キャリア」は「わだち」を意味し、車輪のとおった跡を意味します。仕事の経歴を意味するものではありません。自分のこれまでの道のりやこれからの道のりを考え、切り拓き、歩み続けるための力を育む教育活動のすべてがキャリア教育といえます。

さて、今年度から全国の小中学校及び高等学校で、「キャリア・パスポート」の運用が始まります。これは、キャリア教育の視点で子ども一人一人の取組や今後の課題を記録していくファイルで、小学校から中学校へ、中学校から高等学校へと引き継がれます。子どもの学びの軌跡を、関わる全ての教職員で共有すること、学校とご家庭で共有することを目指しています。

新潟県では、「新潟っ子を育くむキャリア教育の5視点」として、①あい（郷土愛）、②ひと（かかわる力）、③じぶん（みつめる力）、④いきる（やり抜く力）、⑤みらい（夢おこす力）を位置づけています。頸城中学校区の全小中学校でも、これら5つの視点から全教育活動を見直し、生徒一人一人の力を育み、記録する取組を始めます。年度の初めと終わりに生徒が記録し、ファイルを家庭に持ち帰ります。是非お子さんと将来についてお話をしていただく機会としていただけますようお願いいたします。